

平和を祈る女性たち

～映画が伝えた原爆・引揚げ～

“平成最後の夏”を迎えた今年、第7回新藤兼人平和映画祭では、俳優の北村総一郎さん、女優の吉永小百合さん、映画監督の山田洋次さんをゲストにお迎えし、戦争や原爆によって平穏な暮らしを奪われた女性たちの戦後の姿を映画はいかにして伝えてきたのか——新旧5本の作品を上映し考えます。



8月5日(日)
北村総一郎さん



8月10日(金)
吉永小百合さん



8月11日(土)
山田洋次監督

【8月5日】満蒙開拓団として満州に渡った人々の引揚げ後の苦難を新藤兼人監督がブラックユーモアを交え描いた傑作「ふくろう」を上映。昨年4月に同作を、初舞台化・演出を手掛けた北村総一郎さんをゲストに迎え、舞台化の契機と終戦時10歳だった北村さんが経験した戦争についてお聞きします。

【8月10日】原爆詩の朗読など核廃絶を訴える活動を続ける吉永小百合さんをゲストに迎え、南樺太からの命懸けの引揚げを経験した母子の戦後を描いた新作「北の桜守」と、代表作の一つ「キューボラのある街」を上映。貧しさの中でも逞しく生きる主人公を演じた吉永さんに2作の思い出をお聞きします。

【8月11日】山田洋次監督を迎え、長崎の原爆で医学生の子息を失った母の尽きぬ悲しみを描いた名作「母と暮せば」(山田洋次監督作)と、新藤兼人監督作の中から山田監督に選んでいただいた「さくら隊散る」を上映。故・井上ひさしさんの遺志を継いだ「母と暮せば」を中心に、戦争についてお話をお聞きします。

3日間とも聞き手を務めていただくのは、共同通信社編集委員の立花珠樹さんです。



聞き手・立花珠樹さん
(共同通信編集委員)

1949年北九州生まれ。一橋大卒。74年共同通信社に入社。ニューヨーク支局、文化部で映画を担当。新藤兼人監督始め、三國連太郎さん、岩下志麻さん、香川京子さん、若尾文子さんら映画人へのロングインタビューや、名画の楽しい見方を紹介する映画コラムなど執筆。著書には、「新藤兼人 私の十本」「岩下志麻という人生」(共同通信社)「若尾文子“宿命の女”なればこそ」「凍たる人生 映画女優 香川京子」(ワイス出版)など。2018年2月、吉永小百合さんとの共著「私が愛した映画たち」(集英社新書)を出版。



司会・御手洗志帆
(新藤兼人平和映画祭代表)

1988年広島市生まれ。青山学院女子短大卒業後、アルバイトで生計を立てながら2012年、新藤兼人平和映画祭を個人で企画。以後ライフワークとして毎年8月に主催し今年で7回目を迎える。2014年からテレビ報道番組制作会社に勤務。ひめゆり学徒隊、陸軍初の特攻隊・万葉隊や三島由紀夫事件などの取材・制作に携わる。2017年には、広島市の母校・安田高女の原爆被害を取材した番組を放送。
連絡先 shihottea@yahoo.co.jp

8月5日(日)「ふくろう」1本上映+トーク 北村総一郎さん



©近代映画協会
2003年/119分/近代映画協会/カラー/ピスタ

「ふくろう」2003年

【監・原・脚・美】新藤兼人【撮】三宅義行、林雅彦【音】林光【出】大竹しのぶ、伊藤歩、柄本明、大地泰仁、蟹江一平、池内万作、木場勝己、原田大二郎、田口トモロヲ、六平直政、江角英明、上田耕一、塩野谷正幸、松重豊、魁三太郎

開拓村の跡から発見された9体もの白骨。最後まで村に残った母娘との間に何があったのか、ふくろうだけが知っている…。戦争や国に翻弄された人々の苦難の歴史に切り込んだ新藤は「戦争をやる人たちによって、女や貧しいものは雑草の中で踏みつぶされてきた」と語っている。

▶10:25~「ふくろう」
▶12:50~13:25頃 トークショー
ゲスト：北村総一郎さん
(聞き手・立花珠樹さん)

【全席自由】
一般：1300円 学生：1200円
新文芸坐友の会・シニア：1000円
※シニアは60歳以上
※前売り券なし
※当日朝から整理番号付き当日券を販売

8月10日(金)「キューポラのある街」「北の桜守」2本立て+トーク 吉永小百合さん



©日活
1962年/100分/日活/白黒/シネスコ

「キューポラのある街」1962年

【監・脚】浦山桐郎【原】早船ちよ【脚】今村昌平【撮】姫田真佐久【音】黛敏郎【美】中村公彦【出】吉永小百合、浜田光夫、東野英治郎、市川好朗、加藤武、浜村純、北林谷栄、殿山泰司、菅井きん、小沢昭一、下元勉、河上信夫、岡田可愛

鑄物の街・川口を舞台に、高度経済成長の時代の波に取り残されながら懸命に暮らす人々をあたたく見つめた名作。浦山に「貧乏について考えてごらん」と言われ撮影に臨んだ吉永が、前向きに生きるジュンの青春を瑞々しく体現した。キネ旬2位。ブルーリボン作品賞、主演女優賞。

▶10:00~「キューポラのある街」
▶12:00~14:05「北の桜守」
▶14:25~15:05頃 トークショー
ゲスト：吉永小百合さん
(聞き手・立花珠樹さん)

【全席指定】
一般：1700円
前売・友の会・シニア：1500円
※シニアは60歳以上

※指定席前売券：8/1(水)より販売
チケットぴあで10:00~
(Pコード558-814)
新文芸坐窓口で10:15~



©2018「北の桜守」製作委員会
2018年/126分/D C P/東映/カラー/シネスコ

「北の桜守」2018年

【監】滝田洋二郎【脚】那須真知子【撮】浜田毅【音】小椋佳、星勝【美】部谷京子【出】吉永小百合、堺雅人、篠原涼子、阿部寛、岸部一徳、佐藤浩市、高島礼子、中村雅俊、永島敏行、安田顕、野間口徹、笑福亭鶴瓶、大出俊、菅原大吉

戦争末期、ソ連軍の侵攻によって樺太から追われ極寒の北海道で生き抜く母子。女手ひとつで懸命に育てた息子が成功して帰ってくるが…。吉永は撮影前に現地を訪れ、壮絶な引揚げ経験をした人に話を聞くなど意欲的に取り組み、冷たい海に入っていくシーンなど渾身の演技を見せた。

8月11日(土)「母と暮せば」「さくら隊散る」2本立て+トーク 山田洋次監督



©2015「母と暮せば」製作委員会
2015年/130分/D C P/松竹/カラー/ピスタ

「母と暮せば」2015年

【監・脚】山田洋次【脚】平松恵美子【撮】近森真史【音】坂本龍一【美】出川三男【出】吉永小百合、二宮和也、黒木華、浅野忠信、加藤健一、広岡由里子、本田望結、橋爪功、小林稔侍、辻萬長

原爆投下から3年後の長崎。ひとりで暮らす伸子の前に、亡くなった医大生の息子が現れる。井上ひさしがタイトルを残し、長崎が舞台という構想を受け継いだ山田は「僕たちの世代が語り残さねばならないことがたくさんある」と語っている。キネ旬9位、主演男優賞、助演女優賞。

▶9:45~「母と暮せば」
▶12:15~14:05「さくら隊散る」
▶14:20~14:50頃 トークショー
ゲスト：山田洋次監督
(聞き手・立花珠樹さん)

【全席指定】
一般：1700円
前売・友の会・シニア：1500円
※シニアは60歳以上

※指定席前売券：7/31(火)より販売
チケットぴあで10:00~
(Pコード558-813)
新文芸坐窓口で10:45~



©近代映画協会
1988年/112分/近代映画協会/カラー/ピスタ

「さくら隊散る」1988年

【監・脚】新藤兼人【原】江津萩枝【撮】三宅義行【音】林光【美】重田重盛【ナレーター】乙羽信子【出】吉田将士、未来貴子、八神康子【証言者】宇野重吉、小沢栄太郎、滝沢修、杉村春子、千田是也、長門裕之、河原崎国太郎、山本安美

広島で被爆した移動演劇隊・櫻隊の足跡を辿り、多くの新劇人の証言を集めたドキュメンタリーに「その時」のドラマを融合。生涯「原爆」に拘り続けた新藤は「放射能がどんなふうにも人を殺すのかを具体的にみるためである」と語る。撮影時76歳にしてこの実験精神に脱帽。キネ旬7位。

第7回 新藤兼人平和映画祭
平和を祈る女性たち
～映画が伝えた原爆・引揚げ～



■主催：新藤兼人平和映画祭実行委員会
■共催：新文芸坐 ■解説：若井信二
■協力：近代映画協会・東映・松竹
■開催場所「新文芸坐」池袋駅東口徒歩3分
東京都豊島区東池袋1-43-5マルハン池袋ビル3F
Tel: 03-3971-9422